

◆今年もまたお隣さんから、佐渡のおけさ柿が届いたと言っておすそ分けがあった。甘くておいしい柿が食べられた。スーパーでは先日まで各地から出荷された柿が広いスペースで陳列されていたが、おけさ柿は見当らない。次に行った時は潮が引いたように柿が消えて、代りにみかんが並べられていた。日を追うごとに、年末年始の用品が入荷しているようだ。新しい年を迎える準備で浮き足立ってくるのだが、コロナの感染やインフルエンザの流行などに気を付けなければならない。年を重ねることが身にしみて感じられる。支えてくださる方々やご縁のある方々に感謝しながら、これからも安穏な日々であることを願っている。

市川茂子

◆或る夜目覚めたら全身が痛く強張って寝返りも起き上がることもできなくなっていた。家庭医から病院の神経内科と整形クリニックでの検査診察の二カ月の間に処方される痛み止めは効かず、夜も眠れない。挙句に帯状疱疹が出て皮膚科医院に行くと、糖尿病の血糖降下剤をやめよとのことで総合内科へ。整形クリニックでは一度ステロイドの注射で劇的効果を見た上で病院の総合診療科への紹介となった。知人がコロナワクチンの副作用ではないかと心配して、「東北有志医師の会」を

教えてくれた。私も四回目接種の二週間後のことであり、担当の医師に話すと「証明できないですね」と。三カ月間の迷走の末、リウマチ性多発筋痛症という診断で、ステロイドの服用を始めて痛みはなくなり、棒になった体も正座以外はできるようになった。副作用が怖いステロイドは数年かけて減らしていくとのことだが、今はあの棒のようになった体が日々解き放されて蘇生していく思いのなかにいる。

梅津純子

◆山形では七草粥を食べる風習はなくて代わりに「納豆汁」を食う。というのも旧暦でさえ春の七草など雪の下であり、新暦ではなおさらのこと、ということなのだろう。最近、山形の郷土食「納豆汁」が季語であるということを知った。しかも読み方は上五下五に使えるように「なつとじる」。「芋がらのえぐ味も旨し納豆汁」

神村ふじを

◆秋口から、公私共に行事が帰ってきました。完全形ではないにもかかわらず、どうもあたふたしてしまって、それぞれに対応しているうちに早くも年末が見える時期に。「制限」をいいことにボンヤリと緩い生活に浸っていたことを実感しています。そして、動き始めたことで、暫く目をつぶっていた「人」とか「人のつながり」とかが見えてきて（悪いことだけではないのです）、心持ちを強くしていかなくてはと感じています。

大橋千佳子

◆一日一日が大事というような年齢、七十四歳になりました。その一日のなかで、朝（決まり）、夕食（中身を考える）の用意が大変で、とくに夕食は、用意して（同居することになって三年）、残業の多い子を待ちます。フライパン1つで100レシピ（NHK出版）という本も手もとにありますが、じぶんには、フライパン料理が多いな、と気づきました。その酷使されるフライパンも、六百六十円で買ったもの。オーブントースター（レンジはない）、炊飯器の買い換えが比較的多いところ、さすがにフライパンはさいごのフライパンにはならず、近々に買い換えが必要なようだった。

小野澤繁雄

◆菩提寺の武蔵野樹林の紅葉は毎年ながしかの人の出がある。暖かい昼下がりであったが、出会う人はいなかった。コロナ禍の自粛が行き届いているのか、紅葉も終わり近くなっているのか寺院は深閑としていた。冬隣という季語を思い出した。本堂の横に芭蕉の碑がある。「父母のしきりに恋し雉の声」である。雉は春の季語だがなぜか侘しい感が漂う。

河村郁子

◆二〇二一年八月、朝日山地森林生態系保護地域に隣接する愛染峠一带に、白鷹町が除草剤ラウンドアップを散布した。この件について翌月の白鷹町議会でS議員が質問した。私たち葉山の自然を守る会はその議事録を一年後に入手した。農林課長は答弁している。「除草剤ラウンドアップマックスロードは、茎や葉っぱから成分を吸収して根を枯らす。いろいろな雑草に効き、広く普及している銘柄だ。ホームページを確認すると、雑草の茎葉にかからないで、土に落ちた成分は処理後一時間以内に土の粒子に吸着し、その後微生物により自然物に分解されると。約三日から三週間で半減し、やがて消失するという性格のもの。世界の環境保護区や世界遺産の保全に広く利用されていると記載されている」。私たちは腰を抜かすほど驚いた。アメリカではラウンドアップによりがんになったとして、販売メーカーのモンサント社を訴えた。裁判ではモンサント社が敗訴し、原告に三二〇億円の賠償金が支払われた。世界各国にこのニュースが伝えられたが、日本ではほとんど報じられなかった。この種の訴えを起こす原告は十二万人にのぼっている。この現実を日本の政府と企業が知らないはずはない。それなのに除草剤は便利で安全なものとして国民に喧伝し、使用量は年々増えている。緑が醜く赤茶色に枯らされた風景が遠のいていく季節となったが、危険な除草剤をなくしたいという私の気持ちは強まるばかりだ。

新野祐子